

THE 52ND KANAGAWA ART EXHIBITION 2016

第52回

神奈川県
美術展

神奈川県美術展委員会・神奈川県民ホール・神奈川県

第52回 神奈川県美術展

The 52nd Kanagawa Art Exhibition 2016

1期展 [平面立体]
平成28年8月31日(水)～9月11日(日)

2期展 [工芸・書・写真]
平成28年9月14日(水)～9月25日(日)

会 場
神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展
平成28年9月28日(水)～10月8日(土)
休館日：10月4日(火)

会 場
厚木市文化会館展示室

主 催
神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
[指定管理者：(公財) 神奈川芸術文化財団]
神奈川県

共 催
(公財) 厚木市文化振興財団

協 賛
(公財) はまぎん産業文化振興財団
神奈川県文具事務用品団体連合会
(株) ニコニイメージングジャパン
(株) ホテル、ニューグランド

後 援
神奈川新聞社／NHK横浜放送局
tvk (テレビ神奈川)／FMヨコハマ

第52回 神奈川県美術展 関係者名簿

(平成28年8月31日現在)

神奈川県美術展委員会					
委員長	磯見	輝夫			
副委員長	林	義亮			
委員					
水沢	勉	五十嵐	卓	尾長	良範
福士	朋子	笹山	央	川口	淳
川口	流坡	西村	東軒	前田	利昭
伊奈	英次	佐藤	達也	中村	英二
審査員					

平面立体					
五十嵐	卓	野田	裕示	橋	秀文
福士	朋子	宮永	愛子		
工芸					
上原	利丸	大村	俊二	川口	淳
笹山	央	三好	かがり		
書					
石川	芳雲	今江	美登里	栈敷	東石
西嶋	慎一	西村	東軒		
写真					
伊奈	英次	金村	修	調	文明
関次	和子	前田	利昭		

応募・入選・入賞者数一覧

	平 面	立 体	工 芸	書	写 真	合 計
応 募	290 人 (379 作品)	56 人 (59 作品)	140 人 (162 作品)	164 人 (164 作品)	216 人 (520 作品)	866 人 (1,284 作品)
入 選	90 人 (90 作品)	17 人 (17 作品)	78 人 (79 作品)	116 人 (116 作品)	66 人 (66 作品)	367 人 (368 作品)
入 賞	8 人 (8 作品)	4 人 (4 作品)	10 人 (10 作品)	10 人 (10 作品)	10 人 (10 作品)	42 人 (42 作品)

※入選・入賞数は、平成28年7月22日時点で確定した数字です。

ごあいさつ



今年も皆様から意欲と熱意あふれる多くの作品を出品いただき、神奈川の文化芸術の力を結集した神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一人として大変喜ばしく思います。また、この美術展の開催に当たり御尽力いただきました関係の皆様方に心からお礼申し上げます。

今年で第52回を迎える神奈川県美術展は、国内でも有数の大規模な公募美術展です。昭和40年の創設以来、芸術家を志す方から、趣味として創作活動に取り組まれる方まで、幅広く成果を発表する場として、長年にわたり県民の皆様に関わってきました。この美術展での入賞を契機に、全国、そして世界へと羽ばたいていかれた方も数多くいらっしゃいます。

今回から募集を全国に拡大し、平面立体、工芸、書、写真の4部門合わせて1,284点もの応募をいただきました。会場には、厳正な審査を経て選ばれた、素晴らしい作品が展示されています。作家の方々が心を込め、自由な発想で表現した才能あふれる作品は、私たちを魅了して止みません。

県では、文化芸術の力で人々が集い、輝き、魅力あふれる神奈川を創造する、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組みを推進しています。今後も県美術展を通して、神奈川から全国に美術の魅力を発信し、「マグカル」をさらに加速させていきます。

最後に、このたび出品くださいました皆様の、創作活動への情熱に深く敬意を表しますとともに、皆様のますますの御活躍を心からお祈り申し上げます。

平成 28 年 8 月 31 日

神奈川県知事 黒岩祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として広く県民に親しまれるとともに、新進作家の登竜門としてこれまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

さて第52回を迎える本年度より、新たな展開を目指して全国公募を開始いたしました。地域を超え、作品を通して相互に刺激しあうことで、本公募展のさらなる活性化に繋げることを目指しています。本年の応募作品数は、昨年度と比較して約1.3倍の増加となり、平面立体、工芸、書、写真の全4部門で1,284点の応募がありました。そのうち県外からの応募の割合は約1割でした。各部門の厳正な審査の結果、全410点の入賞、入選作品が選ばれました。

本展は、多彩な美術作品を一度にお楽しみいただける絶好の機会です。また、神奈川県民ホールギャラリーの展示空間を活かした大作も見どころの一つです。

さまざまな想いのもと、多くの時間をかけ制作に臨まれ出品された、全ての皆様に敬意を表したいと思います。そして、これからもこの神奈川県美術展において、新たな時代を切り開くような美術作品と出会えることを祈念いたします。

本展において、厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、運営に関し専門的な立場からご助言をいただきました委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

さらに、各賞を賜りました公益財団法人はまぎん産業文化振興財団様、株式会社ホテル、ニューグランド様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコイメーシングジャパン様をはじめ、ご関係の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 28 年 8 月 31 日

神奈川県美術展委員会委員長 磯見輝夫

目次

1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体	6
入選作品目録 平面	7
入選作品目録 立体	8
審査講評 平面立体	9
平面立体 受賞作品	10

2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真	20
入選作品目録 工芸・書・写真	21
審査講評 工芸	25
工芸部門 受賞作品	26
審査講評 書	32
書部門 受賞作品	33
審査講評 写真	39
写真部門 受賞作品	40

平面立体

1 期展

受賞作品目録

平面立体

大賞	堀家由紀子	東京都	あんたがたどこさ	平面
準大賞	神山 豊	横須賀市	Megaptera	立体
特選	室井公美子	山形県	Anima	平面
かながわ賞	中里 葵	埼玉県	深夜のファミレス	平面
かながわ賞	佐藤 暖	横浜市	D	立体
奨励賞	久保 美貴	相模原市	夏草	平面
奨励賞	山本 明良	東京都	万象 一祈りー	立体
美術奨学会記念賞	伊藤 夏実	相模原市	喩えて、どこかにしまっておく事	平面
美術奨学会記念賞	戸張 花	東京都	FORCE	立体
県立近代美術館賞	谷保 玲奈	横須賀市	呼応	平面
はまぎん財団賞	泉 桐子	横浜市	蟬と景	平面
県議会議長賞	満武 京子	横浜市	収穫	平面

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者に贈られる賞です。

※県立近代美術館賞は、平面立体部門において県立近代美術館による作品買い上げ賞です。

※はまぎん財団賞は、平面立体部門において（公財）はまぎん産業文化振興財団より贈られる賞です。

※県議会議長賞は、平面立体部門において県議会議長より贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者の提供によります。

平面

櫻井伽奈子	うつろいゆく風景
川村 陽平	景
杉山 衿香	なんで生まれて来たの
新川 沙織	万華鏡
松尾 香織	祝宴の海
高橋 周平	Trace
加藤 美穂	a concept
小島 翠	ファミリー 1
茂野 生世	Untitled B
宮本 弘子	森の階段
折居 恵子	春のおとずれ
永山 勲	天と人の災禍
吉田 純子	Birth
白石 武市	彼女は仔犬と散歩
亀ヶ谷 豊	CROSS
興梠 優護	Triplicate X
日隈 和久	標本
河合 真里	gate
知久 茂雄	記憶の街・春
Benito Toscano	夏のおとずれ
木村 光里	ここに [] があった
飯沼知寿子	murmur
富永 瑞雪	PM13, on the way home.
濱中 和夫	都会の幻想
河野 良雄	聖肅・流転
小平 功一	I'm going home 2016
藤森 哲	磁場
藤村 弘子	RUIN I
ササキ永利子	かくれんぼの木
佐々木朋子	喝
石原 肇	童女の横顔
中条璃々子	木漏れ日
三浦なつみ	観察
川口瑠利弥	Ideal
小林 真央	Oasis
高松由佳利	標本
坂内 直美	駆ける
趙 蕾	食べたい
吉田 未空	かわいた音、パラパラ

藪奥 晴奈	包まれて
用田 茉衣	増殖
米田 称侑	布橋灌頂会
漆畑 流	とりとめのない記憶
孟 桓安	風船
西川 絵里	海の藻屑
鈴木沙也果	Farm
並木 敦子	夕暮れ
小野 有貴	危機
大内 みえ	愛のある生活
田辺いづみ	early in the afternoon
室井 麻未	庭
石河 靖子	伝言
葉栗 翠	2016 年 3 月 12 日 譚 11 歳
林 真知子	Sam-I
稲葉 明子	はな II
大庭 京子	永遠の森「再会」I
桜井 敬子	存在の景 I
赤堀 英子	春のおとずれ
渡部 未乃	浮かぶ雲
秋葉麻由子	紫電一閃
坂本久美子	光降る
清水 航	樹魂
千葉 純子	三崎口
民長 桃香	わからない
広瀬 弘幸	空と海と 2
田嶋 佳子	「F から B へ」
加藤 哲郎	海老
神山 一美	海底庭園
木村梨枝子	場所 16-7-2
平林 英一	Nightingale
磯野 悦郎	地霊 KUMAMOTO
加藤 覚	夜景
根本 雅行	gray_01
日隈 映	春の宴
作佐部 豊	blossom
大西 由莉	composition
今井 陽子	みずへんげみずめぐり
城倉 綾子	地上に降りしくくすしき光

※掲載は作品番号順です。

平面

安田 文夫	我もむかしは男山・今や楽阿弥孫遊び
手賀 彩夏	生まれて、きえる
田中 桜子	柔い煌めき
北村はるか	理性的な植物
吉永 蛍	雲のように流れる物語
敏・st・アシュレ	亡き義父に捧ぐ（君主ラン）
永井 雅人	Textures・秋
一ノ木タツミ	ひかりの表現
聞一 順子	オカピとソーセージの木
福島あゆみ	部屋の中
矢沢 進	海の声
菅原 玄奘	Buzz

立体

石山友梨香	鞆の人
JIN LONG	日の丸
金井 葉子	嘯香
巾崎 知佳	そして始まるあなたの話
三森 早苗	ひとつ たくさん
北川 純	ももいろといき
ASADA	Can I swim ?
矢野 晋次	unfinished
栗原 麻緒	ループ 雲
齋藤 友樹	おもかげ
七瀬 綾乃	rainbows edge
飯島 浩二	「危ない遊具～塵馬千里をいく」
山口 光	fiction
額賀 苑子	not clear 03
辻 忍	つきに水みち
渡邊 萌花	The Sheep
中村 宏太	無垢

今回より全国公募となり出品数が増えた中での審査であったが、審査基準は5人の審査員の審美眼に委ねられている。美術作品の客観的な点数化は不可能なので、審査員のやや主観的な判断になるのはやむを得ない。但し、個人情報や伏せた厳正な審査であり、出品作品の中から入選作品を選抜することは、ジャンルや技法を問わず「質」を基準とし、極端な傾向に偏ることはない。コンペでは仕方無いが、入賞作品の選別方法が投票と合議なので、「最大公約数」の無難な作品が選出されることになる。審査員が「入賞を契機に全国、そして世界で活躍する芸術家を発掘したい」という願いを共有していたことは救いである。

まず、大賞受賞した堀家由紀子さんは、HOLICOという作家名でも活躍しているが、今回の出品作「あんたがたどこさ」は異色の作品として第一次審査から注目されていた。35歳以下の方が対象、神奈川県在住・在勤・在学の方が対象などの他賞と総合的に勘案した結果、堀家さんと特選を受賞した室井公美子さんが大賞を競うこととなり、審査員投票3対2で堀家さんが大賞受賞となった。横向きの人体に正面向きの顔、そしてもう一つの人体が前面に佇む。色面が散在し、摩訶不思議な異空間が存在感を放っている。

室井公美子さんの「Anima」（ラテン語で生命や魂の意味）は、山形からコンテナ車で運ばれた大作であり、神話や聖書を彷彿させるモチーフを散りばめながらも原初的で深遠な概念を象徴している作品で、力強いブラシュ・ストロークが豪快である。二つの作品に共通するのは、先が見えない混迷する社会の中でもがき思索する我々のメタファーであろう。

久保美貴さんの「夏草」（奨励賞）はエミール・ノルデのような色彩で幻想的な樹木と山並が描かれている。巧みな色彩のとらえ方で、情感的な訴求力を蓄えている。伊藤夏実さんは、今年のトーキョーワンダーウォール賞受賞者でもあるが、「喩えて、どこかにしまっておく事」（美術奨学会記念賞）で、大都市の断面を大胆に捨象するイメージで都会の真髄を表現している。

中里葵さんの木版画「深夜のファミレス」（かながわ賞）は、窓外の明かりが灯る家並に店内の蛍光灯照明

を重ね、静謐で孤独な心象を表現し独自の世界を構築している。谷保玲奈さんは大原美術館 ARKO や他賞受賞など近年の活躍が目覚ましいが、紙本着彩「呼応」（県立近代美術館賞）で動植物を鮮やかな色調と精緻な描写で表現し、際立つ地平を確立している。

泉桐子さんの「蟬と景」（はまぎん財団賞）は、見る度に魅力が増してくる力作である。岩絵具と墨で山や木をとらえ、空中に浮かぶ花形の形状は蟬の声を表現しているのだろうか。景色に顔が見え隠れし、複雑怪奇な画面で音が共鳴しているようである。満武京子さんの「収穫」（県議会議長賞）は、熟して色づいた果物の実りを謳歌するように、暖色で果実をとらえ、内部を透過するような大胆なフォルムとインパクトある構成力が見る者を惹きつけて離さない。生命の賛歌ともいふべき、瑞々しさが輝く。

立体作品で準大賞の神山豊さんの「Megaptera」は、下部の歯車をハンドルで回すことでザトウクジラの胴体と鰭が動く仕掛けになっている。完成度が高く一次審査で満票獲得した。山本明良さんの「万象一祈り」（奨励賞）は、組み込んだ木片で船形を形成し、その頂上部に様々な色彩の布が埋め込まれている。一見して「ノアの箱舟」を彷彿させるが、側面の筆触跡の残る白い表情と、か弱い布の集積との対比が哀感漂い、見る者の心を震わせる。

戸張花さんの「FORCE」（美術奨学会記念賞）は、棒状の鉄を上下で繋げて、その粗密さによって対峙する「力」を表現しているのだろう。佐藤暖さんの「D」（かながわ賞）は、木とフェルトによってDinosaurs（恐竜）を形成し、フェルトの表情豊かな色彩と質感が親しみを増し、ユニークで愛らしいフィギュアを創り出している。

入賞者は「最大公約数」の審査結果であり、時として賞を逃した作家がその後大きく飛躍する場合がある。芸術は人類だけに与えられた創造力の成果であり、その「尖がった」才能は、時間をかけて認められることがあるからである。神奈川県美術展を契機に、出品者の皆様が次のステップに昇られることを願い、今後も皆様の作品を見届けたい。祈健闘。



大賞

あんたがたどこさ

堀家 由紀子

油彩 130×162cm

[略歴]

1970年 愛知県に生まれる

1995年 関西大学大学院 文学研究科博士課程前期課程国文学専攻 修了

2013年より本格的な制作活動に入る

2014年 上野の森のアートスクール夏季特別講座を受講

[受賞歴]

2015年 日仏現代国際美術展 新作家賞受賞

[展示歴]

2015年 新春展 (NICHE GALLERY)



準大賞

Megaptera

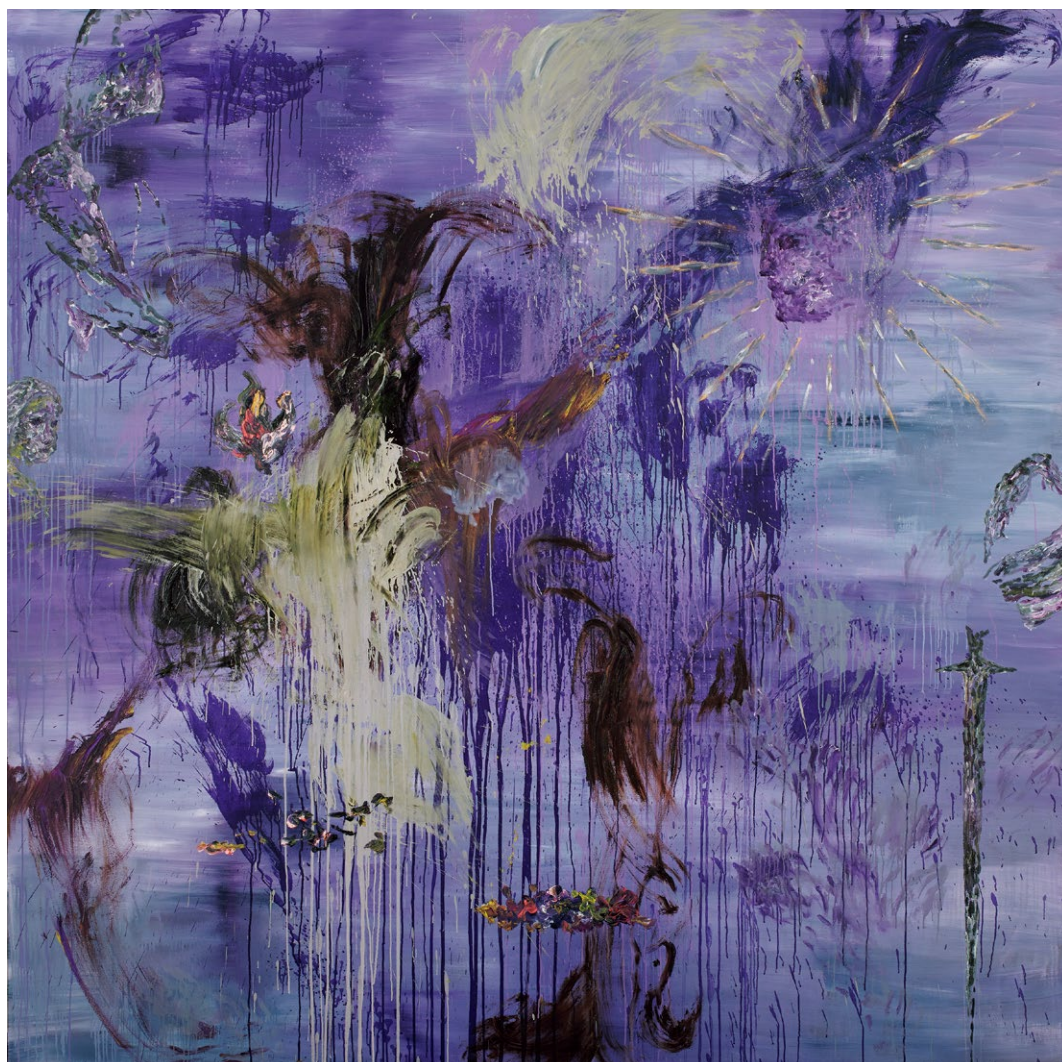
神山 豊

木

230×270×160cm 100kg

[略歴・活動歴]

- 1955 横浜生まれ
- 2010 国展彫刻部に出品
- 2011 動く海洋彫刻「OCEANS」シリーズの制作開始
- 2013 国展「彫刻部奨励賞」受賞
ISE NY Art Search 2013「ISE AWARD」受賞（ニューヨーク）
- 2014 「ISE NY Art Search 受賞者展」出品（ニューヨーク）
- 2015 国展「F氏奨励賞」受賞
YB展「横須賀美術館賞」受賞



特選

Anima

室井 公美子

油彩、キャンバス
228×228cm



かながわ賞

深夜のファミレス

中里 葵

水性木版、和紙
60×91cm



かながわ賞

D

佐藤 暖

フェルト、木、アクリル
200×70×170cm 90kg



奨励賞

夏草

久保 美貴

油彩、キャンバス
162×130.5cm



奨励賞

万象 - 祈り -

山本 明良

木、布
57×150×60cm 120kg



美術奨学会記念賞

喩えて、どこかにしまっておく事

伊藤 夏実

油彩、キャンバス
194×162cm

美術奨学会記念賞

FORCE

戸張 花

鉄
140×70×70cm 200kg



県立近代美術館賞

呼応

谷保 玲奈

紙本着彩
182×226cm



はまぎん財団賞

蝉と景

泉 桐子

石膏地、岩絵具、墨
182×237cm



県議会議長賞

収穫

満武 京子

油彩、キャンバス

162×162cm

工芸・書・写真

2 期展

受賞作品目録

工芸

大賞	小田 伊織	大和市	宵明け前	漆
準大賞	石橋 聖肖	茅ヶ崎市	神彩佗佗	彫金
特選	伊藤 昭仁	横浜市	メタモルフォーゼ	陶芸
かながわ賞	谷 健治	鎌倉市	染付椿文壺	陶芸
かながわ賞	長友 由紀	横浜市	はじまりの海	染色
奨励賞	手作り工房 「暮楽花人の風」 瀬戸 清美 磯崎さち子 池上 節子	足柄上郡 大井町	花舞	ドライフラワー
奨励賞	藤森 京子	横浜市	積 - ひだ -	縫い付け
美術奨学会記念賞	萩原 佑三	横浜市	記憶の風景	陶芸
美術奨学会記念賞	鯨虎じょう	相模原市	半魚人鉢	陶芸
ホテルニューグランド賞	大杉 幸代	横浜市	赤絵細描十二角陶管「躍」	陶芸

書

大賞	神山 紅雲	横浜市	王漁洋詩二首
準大賞	大木 明子	横浜市	夏夜の能舞台
特選	清水 理佐	藤沢市	見わたせば
かながわ賞	森 俊行	横浜市	三十六歌仙のうた
かながわ賞	生駒 蘭嵩	鎌倉市	譚元春詩
奨励賞	小林 大鴻	伊勢原市	菜根譚語
奨励賞	長 巨瑋	大和市	龍反其淵
美術奨学会記念賞	竹内めぐみ	中郡大磯町	かげろうの街
美術奨学会記念賞	古里 航	横浜市	朝揮灑夜校讐
県文具事務用品団体連合会賞	片岡 稲處	横浜市	蘇東坡詩

写真

大賞	小柴みなみ	横浜市	正直な人	3 枚組
準大賞	中村 宏太	鎌倉市	デート	
特選	平山 康男	横浜市	旧ソ連時代のアパート	2 枚組
かながわ賞	小野 早苗	川崎市	ふたりの歩調で	
かながわ賞	笹谷奈翁美	横浜市	梅雨の晴れ間	
奨励賞	阿部 弘	横浜市	体長 3m - 平和な出会い	
奨励賞	宮坂 駿一	横浜市	岳南の夏	3 枚組
美術奨学会記念賞	大野 詳平	横浜市	草花写生「深海」	3 枚組
美術奨学会記念賞	松本 拓也	千葉県	参道横切り	
ニコン賞	三村 信昭	横浜市	朝飯を見つけたカモメたち	

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者に贈られる賞です。

※ホテルニューグランド賞は、工芸部門において（株）ホテル、ニューグランドより贈られる賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、書部門において県文具事務用品団体連合会より贈られる賞です。

※ニコン賞は、写真部門において（株）ニコンイメージングジャパンより贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者の提供によります。

工芸

香取 孝彦	天祿 (segen)	鍔金
笠原 頼子	花火	人形
金子 恵子	どこかで雨の音がする 染織、刺しゅう	
平田 美沙	飛躍	金工
高橋 里子	Happiness of birds (幸せの鳥)	陶芸
森岡由記子	竜胆祈	人形
千葉ひろみ	かあにぼる 2016	陶芸
岡屋 郁子	海の詩	陶
本木 理紗	THE UNKNOWN	ガラス
作田美智子	道	ガラス
古坊 聖子	ぶどう	陶芸
佐藤なぎさ	おこして	金工
上野 弘子	夏のくじら	陶
岡田 光子	fall	陶芸
橘川 和男	ゆくりなくも	木漆工芸
阿部 順子	みなみの風	染
亀 朝江	三段筆笥 (サムチュンジャン) 韓紙工芸	
栗津 千慧	静寂	染織
五十嵐里美	雨 染色、刺し子藍染	
代田 幸江	輪花	漆
松本 圭子	ハナショープ	陶
清水 実	木の輪 J2	木工
小酒井基紘	ゾウの王国	綴れ織り
福岡美知子	着尺「ひかりみち」	染織
今林三恵子	蒼	金工
松永 慶	流線彫文皿	陶芸
北原ふみ子	悠	陶
阿部 貴央	互々々	吹きガラス
小林 広美	ヘアコーム「鳥の夢」	漆
大寺 純子	影_アダムの写真	陶芸
福田 典子	薫風の街に	七宝
薬王寺太一	Quark	陶(土器)
HWANG MI JIN	あふれる	ガラス工芸
佐藤 格	Tooth Fate	木材工
桂川 美帆	眼差しは宙を巡る	染織
佐藤有美子	くまとかわうそ	陶芸
金子真理子	繫	陶芸
石河美和子	たね 型染め、両面染め	
小竹 章子	秋深し	陶芸

東條 裕志	彫刻硝子花器 群虫図 ガラス (サンドブラスト)	
志賀 邦範	光のトルネード 0938	陶
乙坂 明生	コバルトレモン	陶
吉満 俊久	信楽甕 響	陶
榎本 茜	円	陶芸
菅谷 美子	朝陽 カットグラス	
北村 隆浩	柝一刀彫茶杓萌生 一刀彫(木工)	
下平久美子	千朶万朶花更紗	陶芸
小山 透	生命力	陶芸
吉田 浩一	Stained glass Violin ステンドグラス	
安部 邦子	視線	陶芸
大内 明雄	律(炭化壺)	陶芸
吉田 直隆	黒光 ガラス	
興石 孝志	Hz	木工
石井 香織	雨垂虹待百合口丸壺	陶芸
宮川香代子	三段引出し「インカの華」	漆
伊藤 和弘	合体(花器)	陶
生頼美砂恵	即	陶
藤田 慎治	葡萄紋灰釉大壺	陶
林田 洋子	香り ぽっ・ぽっ・ぽ〜ん	陶
住吉 孝行	天津風	陶芸
石橋 伸一	樹間の落日	漆
石橋 伸一	宇宙ホテル(宇宙ステーション)	漆
二俣 吉秀	革の花器 kawakiri	革工芸
山本ゆう子	Be Born	藍染色
穴井 麻美	ゆる	ガラス
ワタナベマリコ	fluctuations	陶
望月すみ子(汎岳)	丸テーブル(幾何文様)	漆工
山田 公也	流星文掛分炭化大皿	陶
浅井 祥子	冬のタペストリー	織
松本 眞弓	花器 gecko	陶
吉池ちひろ	芭蕉布七福神	人形
鶴岡 弘	大地の贈り物	漆
井上美佐子	宙	陶
小川 紫乃	鳥籠	陶芸
加藤 菊文	コンポート	木工
鈴木 典子	薫風	陶
中尾 雅一	宙の雫 ガラス工芸	

※掲載は作品番号順です。

工芸

中村 あや	江ノ島五頭龍伝（愛死天女龍） メタルエンボッシング（錫）
吉田 朋花	浄化へ向かう澱 ガラス

書

竹内絵里子	夕暮れの街
川崎 純子	銀色の画
木村 純子	微かな調べ
福田 夢澄	御岳溪谷の夕べ
日守 鍊	ターミナル
江藤 多恵	エミール・ガレに捧ぐ
平澤 毅	雨の参道
児玉 真理	風だより
菊地 悦呼	青い響き
平出 節子	藤井杜志の詩 丹頂
竹内千恵子	秋の輝きををのぞく
高橋 聖陽	見付拓の句
深瀬加代子	田部井花子の歌
富岡 如珠	石川啄木の歌
清澤実香子	夜干しの梅
小林 千幸	信州の四季
松尾 純子	雪ごころ
本間 琴秀	河岸の雨
久村 拓司	東山魁夷画文集より
上野 春海	短歌（佐々木千代のうた）
比留川秀水	北原白秋詩 この道
水野 燕風	春の舞踏
黒沢 玲香	六月二十七日望湖樓醉書五絶
佐藤 白峰	幽州夜飲
池上 恵峰	ほととぎす
四季 茜歩	冰壺を抱く
岡田 珠美	正岡子規の歌
山田 栄恵	古今和歌集（3首）
伊藤 孔己	古今和歌集
中澤 春雪	古今和歌集
小澤 雲峰	李白詩
浅間 静江	短歌二首 吉井勇
藤田 紫琇	小姑山
三橋 和泉	高適詩
木下 清華	春雨や
島村 秀芳	李白詩
渡部 祥優	鄭常詩
重田 鶴耀	李頎詩
森崎 愛芳	徐賁詩

書

高橋 暢芳	「秋興八首」
杉村 莊雲	劉禹錫詩
高橋 佳奈	歌
下元 原祁	日本の風姿 土井晩翠詩
岩崎 翔星	コスモスの群生
前川 爽凜	I am a HERO 福山雅治詞
木村 光耀	朝を愛す 室生犀星詩
森田 皋月	鐘は鳴る
山田 華映	王維の詩
平子 瓊青	海邊の虹
田中 浄笙	井上靖詩「ボンペイ」
北原 暁光	古代の遺跡
伊藤 湘理	宇宙の星
上村 泊舟	経廬宝慶寺
柿沼 芳秋	酬張芬赦後見寄
中山 壽香	蓬萊三殿侍宴奉勅詠終南山
兎澤 羊舟	湘中送友人
横山 聖水	長洲懷古
松田 栖舟	春夜別友人
荒川 涼舟	送崔約下第歸揚州
佐藤 清紫	送別崔著作東征
岡田 佳舟	晚次樂郷県
柿沼 柏苑	和康五庭芝望月有懷
高木 香葉	叢臺
加藤 香華	新秋寄樂天
茅野 秀苑	春過ぎて
中西 晃雪	優しくも
加藤 心圓	蓮
豊田 紫英	津の国の～
中村 霽澄	海原
宮田 静鏡	わが君
岡本 光草	枕草子・秋は夕暮
増田 珠香	忘機
徳原 玉萩	哀愁
石黒 雅彦	忘却
大木 英泉	寒烈
五十嵐龍輝	古き大和舞の歌
山口さゆり	見賢思齊
遠藤 子杏	覆水難収

田草川雅子	山ざくら
八十川茜舟	万葉集
水本 知葉	稱讃浄土佛攝受経
河田 和代	たぐひなき
鳥海 富子	春くれば
山口 楓晃	初秋
武 啓茜	春の山辺
西澤 蒼海	白居易詩「吳中好風景其二」
前橋 蒼峻	暮秋経旧游有感
牛山 香流	夏目漱石詩 送友到元函根三首
柴田 羊晃	なびきよる
山本 草琇	芙蓉曲
中村久仁江	水仙のはなびら
下門 芳子	昔日
小林 史青	桑田佳祐の詩
浦 堯秀	李疑が幽居に題す
小林 堯霞	張籍の詩
樋口 寒月	福至心霊
竹内 徹	我獨清
島森 椿茜	和歌五首
池田 玲子	邵長蘅詩
猪俣 香浦	薛瑄詩
土屋 景曄	藍仁詩
舟田 春露	李東陽詩
宇田知恵子	王漁洋詩
鯉沼 紫虹	林鴻の詩
平田 紫穂	李頎の詩
北澤 榮秀	梁寅の詩
伊藤 深山	中
多田 文江	百人一首
伊原知恵子	百人一首
加藤 美和	山家集
相根 恒舟	夕顔の花
河又世津子	源氏物語（胡蝶）
三村 早苗	百人一首
猪野 光舟	廓然無聖
中田 早苗	體恭爲華
猪野 公一	玄鳥帰

※掲載は作品番号順です。

写真

秋本 伸明	薫風に泳ぐ	
吉原 靖男	“ナニカゴヨウデスカ…?”	
金子 正隆	Japan	
小高 紘佑	ハートロックスポット	2枚組
長嶋 巧	忍び寄る過疎	2枚組
茂木 行雄	クラスメイト	2枚組
鳴海 廣治	樹影Ⅲ	
新井 唯光	パラダイス	
土井 満	祭日点景	
笹川 廣	夕刻の雲	
池 厚一郎	過密都市	
吉村 宏人	泥んこだ	
柑子木宣博	満開	
高浦 正幸	帰り道	
高橋なつみ	瞬き	3枚組
岡本 高司	わたしたち おいかけられて いるカモよ	
北原 實	まったりゴロ寝	
畑 誠一	入らないでね	
山下浩一郎	天上から舞い降りる白き使いよ	
小田柿雅彦	運河の片隅	3枚組
吉田 喜久	国道・人道・師弟道永遠	
西沢一比古	猫クラブの面々	3枚組
和田 政夫	路地裏	
吉田 好臣	A RAINBOW	
稲次 正知	あなたへのブーケ	
畠堀ひと美	問いかける瞳	
平林 靖敏	東京花日和	3枚組
木村 宣夫	野島橋界限	
皆川 幸恵	意外な一面	2枚組
白崎 裕彦	海上パン食い競争	3枚組
高木 研璽	帰還	
大槻 操	老いを知らず	
市川 雅章	緑陰	
古北 隆	貝面相	3枚組
武藤恵美子	樹海	3枚組
中村 俊弘	追憶	
有馬 良江	パパとママと僕	
多田 正司	昭和残像	
清水 進	予感	

藤本 壽春	南・北・風の航跡	3枚組
三橋 康弘	黒い日傘の女	
長田 君雄	揺れる想い	
高橋 一弘	男気	3枚組
安野 亨	見る事と見えている物に対する提言	2枚組
立花 幸子	おかあさん 大好き	3枚組
立川 明	ローカル線の春景色	
カレン・スターリング	小さな神楽師	
神野 賢治	駅裏にて	
相澤 演義	閉ざされた窓	3枚組
津金 勝枝	おむかえ	
小川 賢	光る怪物現る	
二見 匡彦	悠久情景	
津田 祥夫	勉強ごっこ	
小柴 立祐	潮風に吹かれて	2枚組
栗原 茂	人工知能（自動車自動運転）	3枚組
黒柳陽二郎	野毛町	
神蔵 和明	迷路の街フェズの日常	3枚組
井上 優	中国新幹線 (1)発着駅 (2)速度表示 (3)車内乗務員	3枚組
佐藤 健司	深夜の漁港	3枚組
神野 愛子	家族	
木所 栄一	転化	3枚組
大澤 勇	現代地蔵	
小林 渡	至福の一杯	
富樫 正一	星と語れば	
木村 篤史	別世界へ	
徳永 彩乃	雨上がり	

※掲載は作品番号順です。

今年から全国公募となり、応募者数は19人、応募作品数は32点の増加ということだが、内容的には特に大きな変化は認められなかった。受賞作品10点もすべて県内在住者のものである。広報期間が短かったこともあるだろう。全国公募の効果が顕著に現われるのは次年度からと思われる。

工芸部門の審査は、応募されてくるものが、まず素材別には陶芸、ガラス、金工、木工、染織、漆芸、人形、紙工芸と多岐にわたり、様式的には現代工芸あり、伝統工芸あり、アートの的があり、デザイン的があり、手芸的があり、見どころ的には、わざをアピールするものあり、表現内容に力点を置くものあり、楽しさ・美しさ・パワフルで勝負しようとするものありで、統一した基準を設定することはまず不可能と言ってよい。なので5人の審査員が個々に審査基準を設定することにゆだねるしかないのだが、それでも票が集まる作品は、結果的に“よい作品”と見なされるものであるにはちがいないのである。“よい作品”には、個性を超えて訴えてくるものがあるということだと考えたい。

以上のようなことを念頭において、二次審査で選出された十数点の授賞候補作品を見わたしたところ、多岐にわたる評価面がまんべんなく振り分けられたような、ほどほどにバランスのとれた選出結果となった。審査の在り方としてありうべき方向での結果が得られたのではないかと思う。ただ全体として特に頭抜けた作品がなかったこともあって、授賞作品の選出段階では票割れの事態も発生した。しかし審査が終わってみれば、これもやはり穏当な結果に収まったように思う。

大賞を受賞した小田伊織作「宵明け前」は、漆芸分野の立体造形作品である。1次審査段階では目立った印象はなかったのだが、審査を重ねるにつれて存在感が増してきた。大賞は二作品の間で競われることになり、漆芸表現としての現代性ということが決め手となった。ここでいう“現代性”とは、洗練された感じがあること、いい意味での軽やかさが感じられ、観る者を愉しませ、なごませるといったようなこ

とである。漆芸作品と言えば、従来、地味で敷居が高く、重苦しくて親しみにくい、というようなイメージがあり、特にオブジェ的な作品は公募展などで授賞対象になることは減多になかったように記憶するが、この作品はそのあたりのイメージを払拭したと言えるのではないか。

準大賞の石橋聖肖作「神彩佗佗」は寺社建築物の軒などに使われる建材に、金属素材の何かの部品やスクラップから作られた人の形とか鳥の形をコラージュして、絵画的なイメージを創り出していったものである。素材のこなし方が洒落ているし間合いのとり方も巧みで、安定した作境をうかがわせる作品である。

特選の伊藤昭仁作「メタモルフォーゼ」、美術奨学会記念賞の荻原佑三作「記憶の風景」、鯨虎じょう作「半魚人鉢」の三点は、いわゆる現代工芸またはアート表現系の陶芸作品である。伊藤は粘土のこなしに熟練の妙味があり、荻原は彫刻的な造型の手堅さ、鯨虎は若さのエネルギーと将来性が評価された。他方、谷健治作「染付椿文壺」（かながわ賞）、大杉幸代作「赤絵細描十二角陶管『躍』」（ホテルニューグランド賞）はいわゆる伝統工芸的な作振りの創作陶器である。両者ともに精緻で堅実なわざをベースに、観る者を装飾美の世界に憩わせる懐の深さを感じさせる。

手作り工房「暮楽花人の風」瀬戸清美・磯崎さち子・池上節子作「花舞」は素材がドライフラワー、藤森京子作「積－ひだ－」は紙と糸を素材にした“縫い付け”というジャンルの制作として、応募作品中他に類例がなく、今後の展開を期待する意味で奨励賞の評価となった。

最後に、長友由紀作「はじまりの海」（かながわ賞）は糊を防染剤に使った筒描きの技法による染色作品。簡潔さと緻密さが同居するダイナミックな画面が圧巻である。

落選した応募作中には、手数をかけてはいるが「何をアピールするか」の点で訴求力不足が惜しまれるものが目についた。テクニックや機能性だけではなく、何を伝えたいかを明確にしていく作業も欠かせない。



大賞

宵明け前

小田 伊織

漆、麻布、木、金、銀
44×24×18cm 0.5kg

[略歴]

1984年 千葉県生まれ
2012年 東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻漆芸研究領域修了

[受賞・入選]

2014年 第54回日本クラフト展 入選
2015年 朝日新聞厚生文化事業団 第5回NextArt展 入選
2015年 East-West Art Award Competition 2015 奨励賞



準大賞

神彩佗佗

石橋 聖肖

銀、真鍮、銅、ケヤキ
20×91×36cm 15kg



[略歴]

1965 神奈川茅ヶ崎市生まれ
1992 東京藝術大学美術学部工芸科卒業
1994 東京藝術大学大学院美術研究科彫金専攻修了
1994～2003 東京藝術大学工芸科彫金研究室非常勤講師

[個展]

1996 机上幻想展(目黒 ギャラリーU)
2011 Life Scape展(大磯 サロン・ド・ダーク) 同2012.2013.2015
2012 石橋聖肖金工作品展(横浜 ギャラリー元町)

[グループ展]

1995 東京藝術大学工芸科教官作品展(東京藝術大学)
2003 前進する工芸(広島市) 同2004(田辺市立美術館)
2010 彫金の風景(東京藝術大学)
同2013(軽井沢ニューアートミュージアム)
高瀬省三・石橋聖肖展(平塚市美術館)
2015 神奈川県美術展(神奈川県民ホール)
他多数

[その他]

1992 原田賞
1996 日本テレビ「美の世界」出演
2004 玉島古墳 垂飾付金製耳飾 復元制作
2015 神奈川県美術展 ホテルニューグランド賞



特選

メタモルフォーゼ

伊藤 昭仁

テラコッタ

33×20×44cm 20kg

かながわ賞

染付椿文壺

谷 健治

磁土

30×30×30cm 5.5kg



かながわ賞

はじまりの海

長友 由紀

絹

116.7×160.6cm 10kg



奨励賞

花舞

手作り工房「暮楽花人の風」

瀬戸 清美 磯崎 さち子 池上 節子

ドライフラワー 90×180cm 4kg



奨励賞

積 - ひだ -

藤森 京子

紙、糸、鏡

51×30×12.5cm 1kg



美術奨学会記念賞

記憶の風景

萩原 佑三

陶土 (赤土)
97×17×24cm 18kg



美術奨学会記念賞

半魚人鉢

鯨虎 じょう

陶
50×35×31cm 25kg



ホテルニューグランド賞

赤絵細描十二角陶碗「躍」

大杉 幸代

磁器
23×16.7×16.7cm 2.7kg

52回を迎えた神奈川県美術展は、今年から全国公募となった。応募総数は164点で、昨年に比し29点の増を示し、その内20点が県外からの応募であった。東京からが18点で、残る2点は埼玉からである。

審査は例年の如く、5名の審査員が5点から1点までの札5枚を持ち、各作品毎に妥当と考える点数札を提示する。その集計により作品毎の評価を数値化して表示した。満票は25点であるが、今回は20点を得た作品が3点出た。続いて19点が2作品、18点が8作品で都合上位作品が13作品となった。賞対象は10作品であるから、この13作品を再審査し、10作品に絞った。

20点の3作品は、優先して大賞、準大賞、特選の候補とし、審査員が再度の評決をした。

入賞作品は当然のこととして、誤字脱字が厳しく審査される。20点を得たかな作品を精査すると誤字が認められ外さざるを得なかった。

かな作品の誤字は昨年も賞候補の作品にあり、審査評で注意をうながされている。もともと小字の世界として展開されて来たかな作品を、大字として表現する場合、しばしば筆遣いに無理を伴い易く誤字が発生し易い。十分に注意すべきである。

二年続いて賞候補の作品から誤字が出たのは残念である。特に本年の賞候補作品は、構成と筆の運びに抜群の出来栄を見せていただだけに、誤字での落選は残念であった。

応募作品を総覧すると、矢張り詩文書作品が多数を占めていた。しかし、本年のこの分野の作品は、無雑作に制作された印象が強かった。表現の強さを意識し過ぎた為であろうか。漢字作品は行草が主流だが、技法が未消化の作品が少なからず見られたのは残念であった。かなは、概して装飾が過多で、筆を細かく動かし過ぎていた。篆刻は、制作の主眼が字法、章法に向けられていて、刀法を生かし切っていなかった。

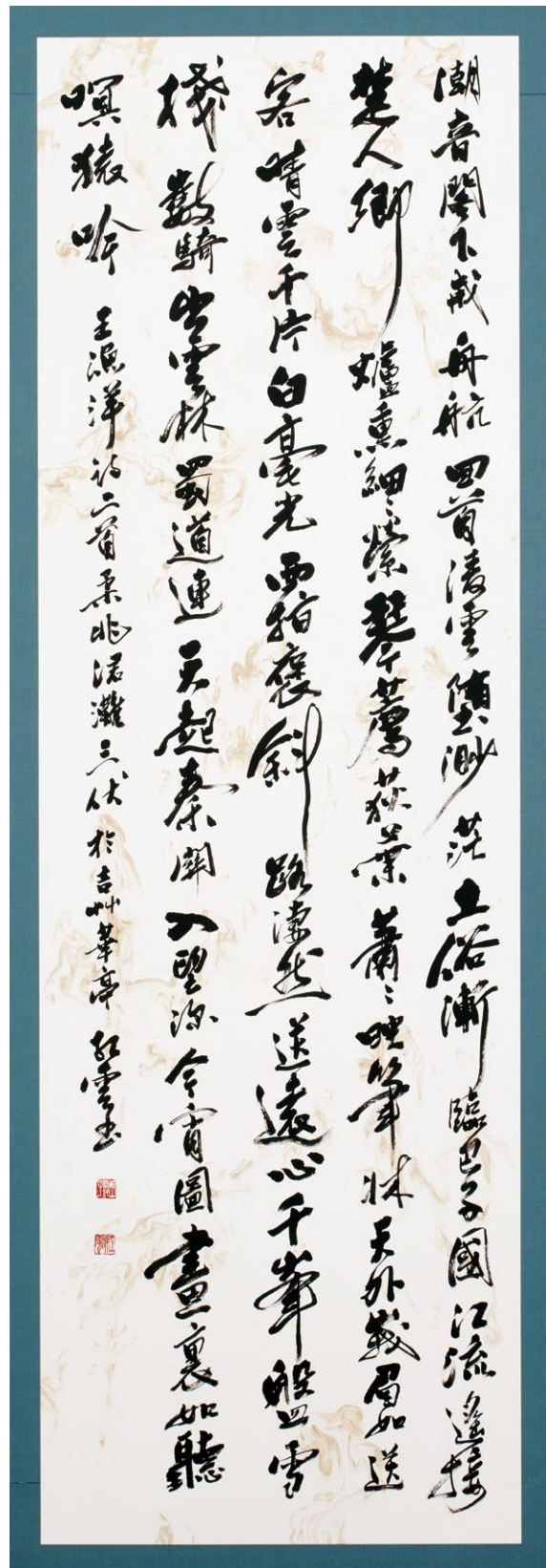
大賞の神山紅雲は運筆が行きとどき、章法にも見るべき味わいがあった。すべてに練られた作である。準大賞の大木明子は、詩情あふれる詩文書作品で、

漢字の使い方がうまい。表現を抑制し、逆に密度濃い味わいを演出することに成功していた。美術奨学会記念賞の竹内めぐみも詩文書であるが、題材の語意に振りまわされることなく、文字を、特に漢字を趣味豊かに書き切っていた。竹内は一昨年に続く受賞で、将来が楽しみな作家だ。

特選の清水理佐は、伝統的な大字かなを過不足無く書き切る力量が好ましい。奨励賞の小林大鴻は、楚系の文字を、この手にあり勝ちな調子書きになることなく、密度濃く書き込まれた力作であった。83歳でのこの意欲作に敬意を表する。同じ奨励賞の長巨瑠は篆刻で白文四字にまとめる。字法が整い刀法の味わいも重んじ、清新な作を演じていた。

本年は、美術奨学会記念賞に篆刻からも選ばれた、古里航の朱文6字である。動勢豊かにまとめ上げた力量は、29歳の年齢からは考えられぬ老熟した作だ。かながわ賞の森俊行、生駒欄嵩は昨年も入賞した。共に筆の動きが手堅い。県文具事務用品団体連合会賞の片岡稲處は章法に見るべき味があった。

県外応募が20名を数え、全国公募の方針は成功したかに見える。しかし、入選は半数の10名で入賞も皆無であった。県外作から入賞作品が出て初めて、全国公募の理念は生きるのであろう。県内居住者も含めての応募の活性化も望まれようし、その期待に応える審査の妥当性も問われ続けるであろう。



大賞

王漁洋詩二首

神山 紅雲

182×61cm

〔略歴〕

1953年 愛知県生まれ

竹青社常任理事

神奈川書家クラブ会員

群星会同人

群遊会主宰

菅野堯處に師事

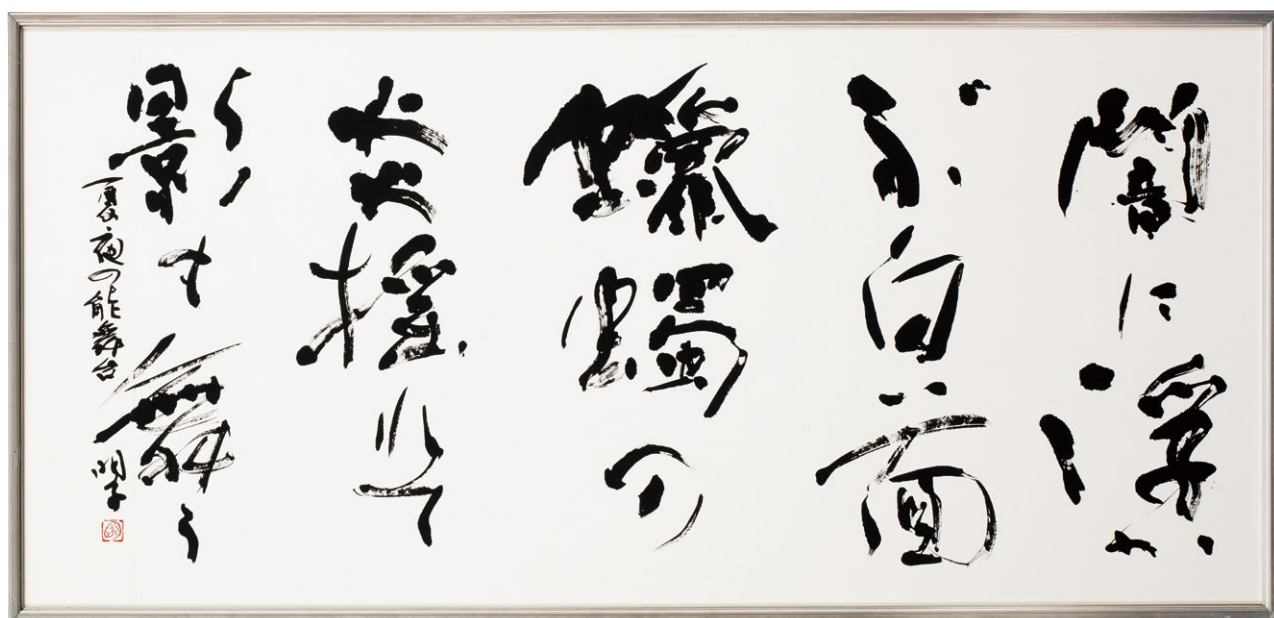
〔受賞歴〕

神奈川県美術展 県文具事務用品団体連合会賞

竹青社青華賞

〔他〕

神奈川県立横浜栄高等学校校名版筆耕



準大賞

夏夜の能舞台

大木 明子

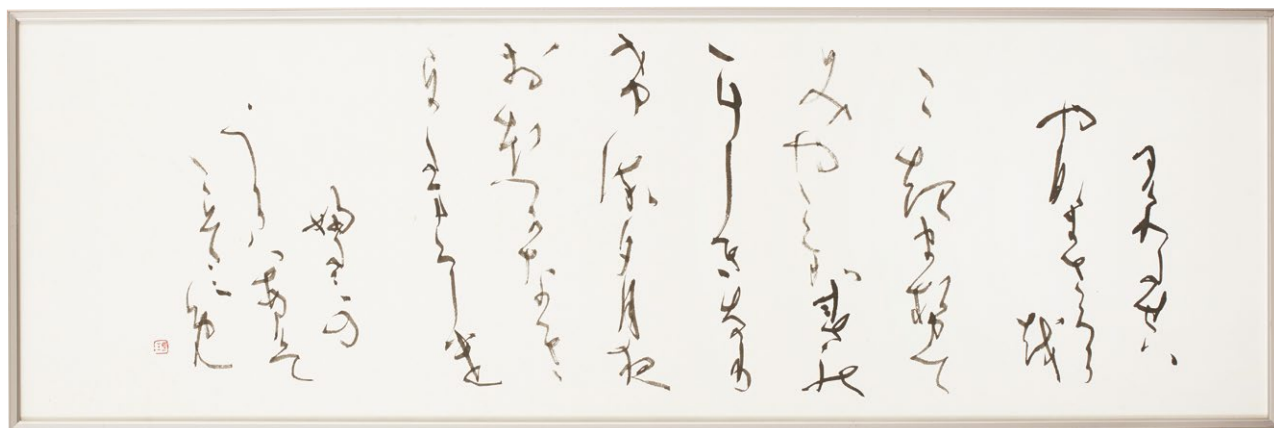
73×152cm

[略歴]

1960年生まれ 神奈川県横浜市在住
 幼少期より父である書家・大木 暁のもと書に親しむ
 第31代ミス横浜
 1983年より船本 芳雲に師事
 毎日書道展会員
 (一社)書燈社評議員
 日本詩文書作家協会正会員
 全日本書道連盟正会員
 神奈川書家クラブ会員
 青花書道会主宰

[書歴]

神奈川県美術展 特選 1回
 毎日書道展 秀作賞3回・毎日賞1回
 高野山競書大会金剛峯寺賞
 書燈社展記念賞
 2011年 書燈社新春展・4人展出品

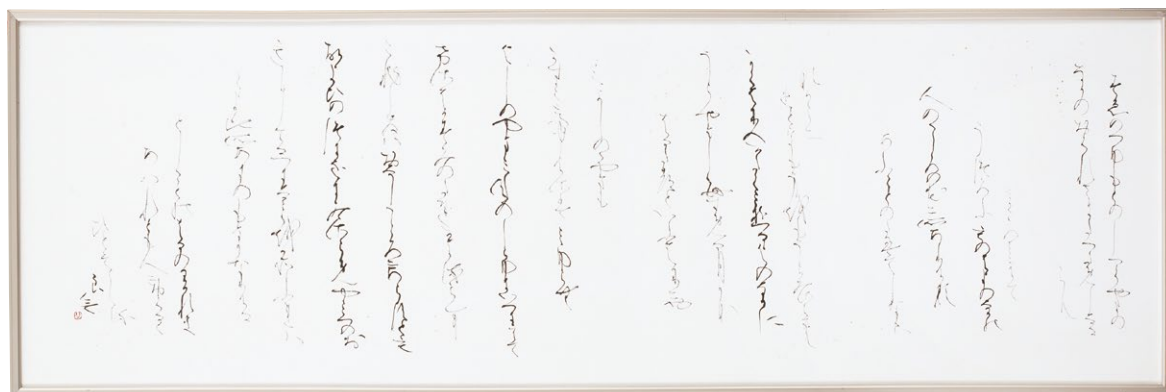


特選

見わたせば

清水 理佐

61×182cm

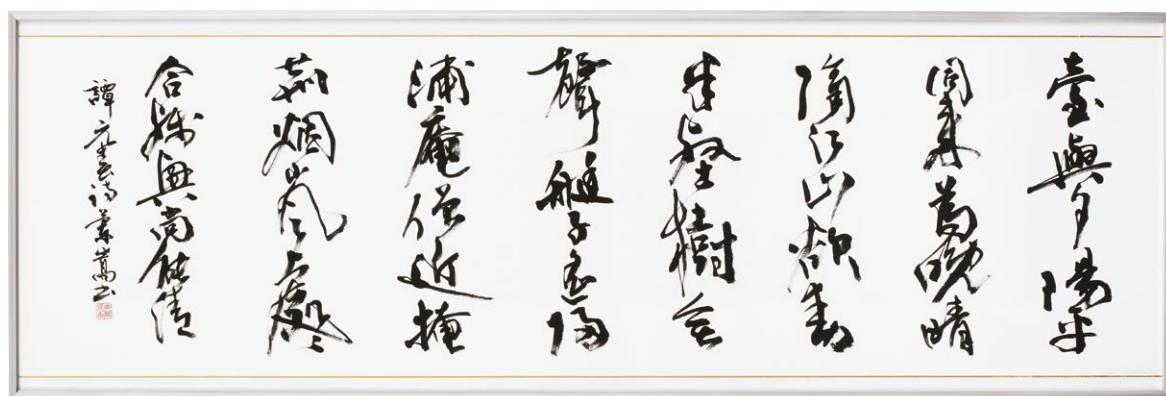


かながわ賞

三十六歌仙のうた

森 俊行

61×182cm



かながわ賞

譚元春詩

生駒 蘭嵩

61×182cm



獎勵賞

菜根譚語
小林 大鴻

182×61cm



獎勵賞

龍反其淵
長 巨琇

39×30cm

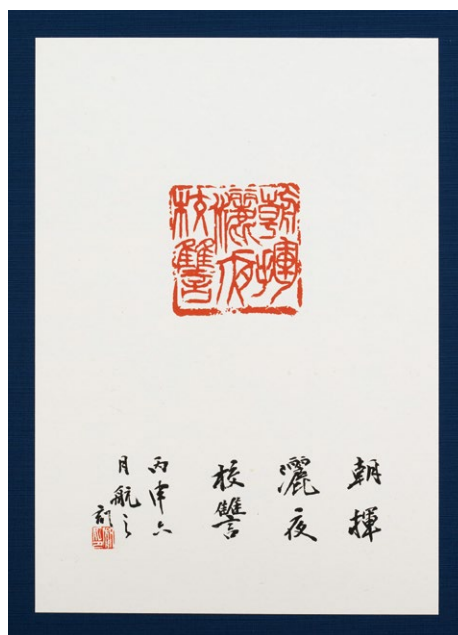


美術奨学会記念賞

かげろうの街

竹内 めぐみ

152×73cm

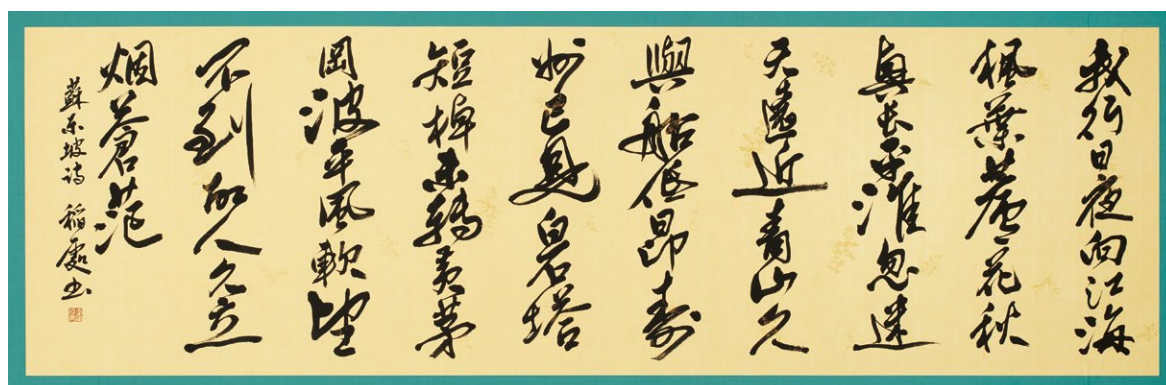


美術奨学会記念賞

朝揮灑夜校讐

古里 航

39×30cm



県文具事務用品団体連合会賞

蘇東坡詩

片岡 稲處

61×182cm

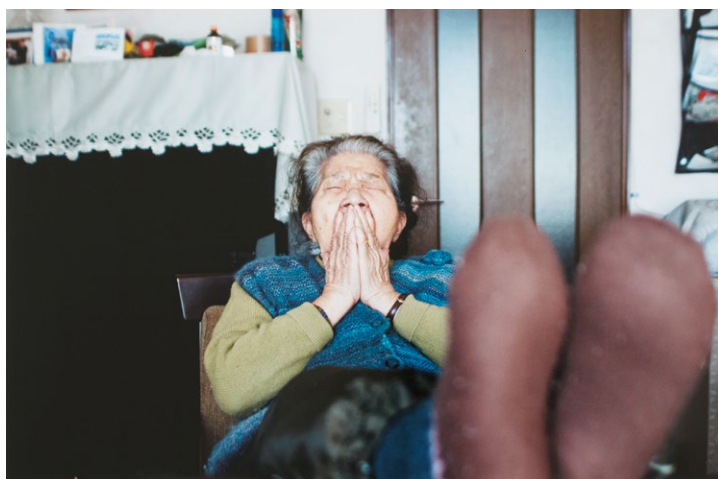
今年の応募作品の傾向を一言で表すのは難しいですが、全体的な印象としては「色」への関心が非常に強まっているように感じました。それは主題が風景であっても人物であっても同様です。空の色をより鮮やかにすることで夕焼けや曇天模様の風景がドラマチックに見えたり、ありふれた日常的な光景が特殊な色遣いによってまるで映画のワンシーンのように見えたりと、色の比重がますます高まっているように見受けられます。その理由のひとつに、写真のデジタル化の促進によって、モニター上で写真を見る機会が劇的に増えたことが挙げられるのではないのでしょうか。パソコンやスマホのモニター、街中のデジタルサイネージなどの透過光の写真は、印刷物や映画紙といった反射光の写真にくらべて、発色の仕方が非常に鮮やかに感じられます。「より色鮮やかに」「より色濃く」と、写真のデジタル化によって色に対する私たちの感受性は気づかないうちに変化しているのかもしれません。そして現在では、その感受性に合わせて画像編集のアプリやソフトウェアで簡単に「自分好みの色」に変えることも可能になっています。しかし、あまりに色ばかりが前景化してしまうと、単純なインパクト勝負に陥ってしまう恐れがあります。自分の撮りたいテーマや被写体と色遣いが合っているのか、今一度見直す機会が必要なのではないのでしょうか。

選考においても、色のインパクトに引きずられることなく、写真の持つ多様な面白さに審査員の目は反応していました。大賞「正直な人」(小柴みなみ)は「おばあちゃん」の何気ない日常の姿を捉えた3枚組の写真ですが、撮影者と被写体との間の絶妙な距離感に親密さを強く感じさせます。ここで筆者は「おばあちゃん」と書きましたが、見る人の立場によっては「妻」とも「母」ともなりえますし、それによって写真の見え方もまた違ってくるでしょう。背景の選び方も室内でありながらヴァリエーションに富んでいて、写り込んでいるものをまじまじと見てしまいます。日常の何気なさのなかにこそ、写真の醍醐味が詰まっているのではないのでしょうか。その意味で、準大賞

「デート」(中村宏太)は「何気なさ」の持つ魅力をうまく活用した作品と言えるでしょう。SNSにアップするような一人称の食事風景のようにみえて、実はスプーンに写り込んだものをよく見てみると、タイトルの「デート」という意味がよく分かるつくりになっています。特選「旧ソ連時代のアパート」(平山康男)は抑制された色合いによって、旧ソ連時代から現代にまで至る歴史の重みを私たちに伝えようとしているかのようです。また、奨励賞「岳南の夏」(宮坂駿一)や美術奨学会記念賞「参道横切り」(松本拓也)は、日常生活に溶け込んだ電車の風景が不意にみせる時空間の揺らぎを捉えていて、異世界のようにも昔の日本のようにも見えてきます。以上、いずれの作品も見た目の派手さはないかもしれませんが、しっかりと腕と思考で制作されていることが評価されました。

もちろん、色のインパクトをうまく活かした作品も評価されています。奨励賞「体長3m—平和な出会い」(阿部弘)や美術奨学会記念賞「草花写生『深海』」(大野詳平)、ニコン賞「朝飯を見つけたカモメたち」(三村信昭)は、色のインパクトをそれぞれのテーマや被写体にうまく合わせることで、強く印象に残る作品になっています。

今回から県外の応募も受け付けることになり、新たにかながわ賞(今回は小野早苗作「ふたりの歩調で」と笹谷奈翁美作「梅雨の晴れ間」が受賞)が設立されました。応募総数も昨年とくらべて大幅に増えたことは喜ばしいのですが、県外の応募率は初回ということもあってか今一つでした。よりよい写真作品を生み出すというモチベーションを高めるためにも、県内と県外の応募作が互いに競い合う間柄になっていくことを期待しています。



大賞

正直な人

小柴 みなみ

〔略歴〕

1987年 東京都生まれ

2011年 中央大学 総合政策学部 卒業

〔受賞歴〕

2014年 第62回ニッコールフォトコンテスト
U-31部門 準特選

2015年 第63回ニッコールフォトコンテスト
カラー部門・U-31部門 入選



準大賞

デート

中村 宏太

[略歴]

1975年 鎌倉市生まれ
 1999年 Syracuse University 芸術学部 油画 卒業 学士号取得
 2003年 New York School of Visual Arts 修了 修士号取得
 2010年 東京藝術大学 大学院美術研究科 油画研究領域 修了 博士号取得
 2010年～2012年 文化女子大学 非常勤講師

[活動歴]

2003年 Site-Specific Installations, Westside Gallery: ニューヨーク
 2005年 Voice of Site, Tokyo-Chicago-New York: ニューヨーク
 2006年 Switch 展: 来往舎 慶應大学
 2008年 岡本太郎現代芸術賞展: 岡本太郎美術館 入選
 2008年 “Who’s Next” 展「アート界のイチロー探し」: MUSEUM at TAMADA PROJECTS 月島
 2010年 博士展: 東京藝術大学付属美術館
 2013年 神奈川県美術展: 神奈川県民ホールギャラリー 平面立体部門 特選
 2014年 CAVE -KANDA PROJECTION- (Trans Arts Tokyo) 元電機大学跡地
 2015年 太陽の塔に対峙せよ! 展 岡本太郎記念館 入選

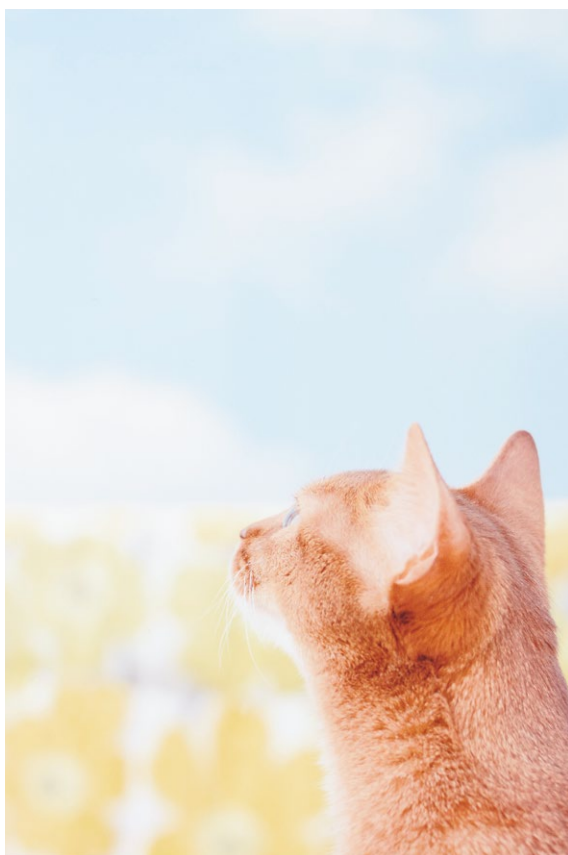


特選

旧ソ連時代のアパート
平山 康男

かながわ賞

ふたりの歩調で
小野 早苗



かながわ賞

梅雨の晴れ間
笹谷 奈翁美



奨励賞

体長3mー平和な出会い
阿部 弘



奨励賞

岳南の夏
宮坂 駿一

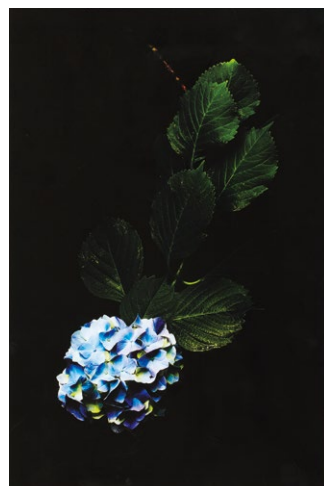




美術奨学会記念賞

草花写生「深海」

大野 詳平



美術奨学会記念賞

参道横切り

松本 拓也

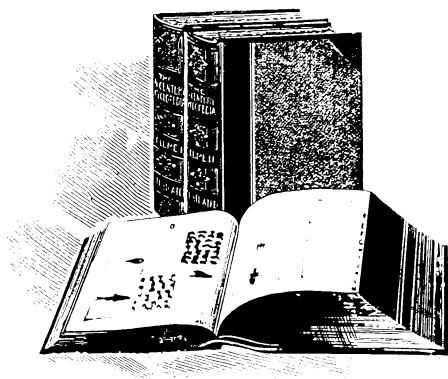
ニコン賞

朝飯を見つけたカモメたち

三村 信昭



BOOKS & STATIONERY



有隣堂

《取扱商品》書籍／文具／事務用品／OA機器／画材
製図・デザイン用品／楽器・音楽教室／出版ほか

伊勢佐木町本店／伊勢佐木町本店別館コミック王国／横浜駅西口ジョイナス店
横浜駅西口エキニア横浜店／横浜駅西口コミック王国／ルミネ横浜店／戸塚モディ店／戸塚駅地下売店
東急プラザ戸塚店／トレッサ横浜店／長津田店／たまプラーザテラス店／センター南駅店
藤沢店／トレアージュ白旗店／テラスモール湘南店／ラスカ小田原店／厚木店／本厚木ミロード南館店
ららぽーと海老名店／アトレ川崎店／武蔵小杉東急スクエア店／新百合ヶ丘エルミロード店／淵野辺店
ミウヰ橋本店／セリオ八王子店／YURINDO annex／町田モディ店／アトレ目黒店／アトレ恵比寿店
アトレ大井町店／グランデュオ蒲田店／羽田空港店／ヨドバシAKIBA店／錦糸町テルミナ店
アトレ亀戸店／シャポー小岩店／シャポー市川店／アトレ新浦安店／STORY STORY
伊勢佐木町本店医学書センター／横浜駅西口店医学書センター／医学書センター 北里大学病院店
戸塚ミュージックショップ／関内ミュージックサロン／横浜ミュージックサロン
戸塚ミュージックサロン／藤沢ミュージックサロン／川崎ミュージックサロン
保土ヶ谷ミュージックセンター／二俣川ミュージックセンター
三ツ境ミュージックセンター／港南台ミュージックセンター／戸塚カルチャーセンター

有隣堂 ららぽーと湘南平塚店 2016年10月6日(木)グランドオープン

営業本部／横浜市戸塚区品濃町881-16 TEL(045)825-5551 <http://www.yurindo.co.jp/>

人から人へ情報を伝えて70年
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式 会社 **気生堂印刷所**
<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号
Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976
e-mail: print@kiseido.jp

The 52nd Kanagawa Art Exhibition 2016
第52回 神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール 事業課内
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
TEL. 045-662-5901 (代)

写真撮影：秋葉雅士
印刷：株式会社気生堂印刷所
発行：2016年8月31日



©Tomoko Fukushi